（明治卅八年壹月拾五日第參種郵便物認可）

朝鮮日報

（電話第四三〇番）

紀元二千五百六十五年
韓曆光武九年
[illegible]曆[illegible]二月廿九日

定價　壹ヶ月金[illegible]
廣告料　[illegible]
發行兼編輯人　[illegible]
印刷人　[illegible]
發行所　朝鮮日報社　釜山港大廳町二十七番地

寄書

軍人家族救助

開戰以來旣に一ヶ年を經過したるが、其間我が軍人が忠武にして、死唯だ國恩に報せんとする意氣込は余輩の常に感ずる所にして、我が軍人に斯る意氣込あればこそ、面積に於て凡そ六十五倍、人口に於ても凡そ三倍餘もある露國と戰ふて未だ嘗て壹回たりとも戰敗の辱かしめを受けざるのみか、却つて一戰毎に彼れの死命を制し、其の爲に我國に頭を屈し和を乞ふの止むなきを[illegible]らしむるに至らんとす、昨今頻りに風說さるゝ平和說の如きも、余輩は少しも耳を借すの必要なく、所謂水平線上に現はれたる一縷の雲煙を見て可なるも、露國に於ては旣に今回の戰爭は到底自國の勝利に歸すべしと思はず、寧ろ戰ふ程却つて自國の弊害を醸すに至るを看て取り、寧ろ今日に於て早く之れを結ぶの頗る得策なるを思ひ、漸く平和の議俄かに高まりしものならん、而して右等の說は漸く平和の風說を流布する造言論を醸成せしめたる者は全く我が忠武なる軍人諸君の力に待つの事多かりしを思へば、能ふだけの誠意を盡くさて其の勞に酬いざる能はず、

余輩は軍人諸君の此の勞に酬ゆるには他に幾多れ方法あるべきも、夫等は他日の事に譲り茲に先づ差當り出征軍人家族救助の方法に關し少しく世人に意注を乞はんとする事あり、蓋し出征軍人の家族を救助するは出征軍人をして毫も後顧の憂なからしむる所以にして、而して考ふれば其の勞に酬ゆるの一端となる事を得べし、

一部の論者は出征軍人家族の悲慘なる狀況を述て頻りに戰爭の慘禍を說き、甚しきに至りては極端なる非戰論をさへ唱ふる者あり、余輩とても戰爭の悲慘なるを知らざるに非ず、死傷累々たる戰場の慘狀は別として一家乃杖とも柱とも頼り居たる者が一朝徵されて軍隊に入り、後は柱なき家と一般、父母や妻子は誰れに倚りて其の生を營み得べきや、勿論斯る際に於ては由來任俠の性に富める我國民の事なれば、跡に殘りし家族をして決して街頭に飢を叫ばしむる如き事をなさしめざるは余輩が玆に論ずる迄もなく、昨年開戰以來全國各地に救護團體の續出せしにても知る事を得べし、其の外獨り私立團體の救護法備はるのみならず政府に於ても務めて其の救護を厚くし且つ迅速にし以て出征軍人に少しも後顧の憂を抱かしめず、彼等をして戰場に於て思ふ存分働かしめんとする者の如し、是れ固より當然の事にして、斯くしてこそ每度の戰に我軍常に勝利の冠を頂くものと云ふべし、而して出征軍人の數愈々多きを加ふれば救助を受くべき家族の愈々多きを加ふるは止むを得ざる所にして、殊に先般徵兵令發布の改正以來、被救助者の數に著しき增加を來したるは、寧ろ自然の數と云はざるべからず、是等多數の軍人家族若くは遺族等は今日果して遺憾なく救助され居るやと云ふに余輩は直ちに然りと答ふる能はざるを悲しむ、假令多數の救護團体ありと云ふとも其の救護金は無盡藏にあらず、況んや[illegible]を經るに從ひ寄附者の財嚢は次第に[illegible]を緊むる者あれども、救助を受くる者は[illegible]の如く次第に其の數を增すとせば、[illegible]街頭に飢を叫ぶ者なしとするも、陋屋に寒を訴ふる者なきを保せず、若し萬一にも斯る事實ありとせば、忠武なる出征軍人に後顧の憂あらしむるは勿論、或は戰後に於ける社會問題の重なるものゝ一とならん余輩は今日に於ても開戰當時の如く大なる熱心と大なる同情とを以て、出征軍人家族の救助をつとめ、以て國家の後援者たるに恥ぢざらんことを望む、（武劍）

●敵艦隊の擧動

近頃の歐電に據れば敵國第二艦隊はマダガスカルを出發して印度洋に出でたりと噂へ或はサンダ海峽に向つて東航の途に上りたりと報せり元來サンダ海峽とマダカスカル島とは凡そ三千三百九十海里ありて之に航せんあとは容易にあらず未だ第三艦隊と合同をも遂げずして直にサンダ海峽に向ひしとは信ずるあと能はず然れどもマダカスカルを動きたるあとは事實なるが如くなればジブチ若くは波斯灣に航行し第三艦隊と合同せんとするものならん第三艦隊は最初よりの行動を繼續し今や既に蘇西を出でゝジブチーに向へり蘇西よりジブチーの間は其の距離凡そ千三百八十海里ありジブチーに着するは來月十日頃なるべくされば愈々第二艦隊と合同するとしても猶多少の日數を要すべく未だサンダ海峽に向つて來航するが如き場合に至らざるべしと云へり（本稿を草したる後別項体件に關する其筋への着電に接したるが同じく其の信ずべからざるを云へり）

●浦鹽港の包圍

と題して紐育トリビユーンに掲げたる浦鹽三月四日發の電報に曰く日本軍二千人朝鮮の北方レエンゲジツに上陸したり此數は軍艦より汽船に乘りて上陸したるものにて上陸中は水雷艇隊之を掩護したりと云々

●平壤鎭南浦航路開始　頃日來の温暖なる天候により大同江海岸全部解氷したるを以て大阪商船會社は去る廿五日より平壤鎭南浦の航路を復舊し鎭南浦丸を其航路に充用せりと

●韓國警務の刷新　韓廷の警察事務刷新のため本邦より傭聘せられたる我警部六名既報の如く城內五箇所の警務所に配置せられ其餘の[illegible]名は丸山警務顧問[illegible]て執務の筈なり右六名の月俸は百圓より八拾五圓までの階級あり韓廷より支給するものなり尙警務顧問所屬員の職制を定め右等の警部に補查官補查等の名稱を附し且右警務外に於て度支大臣及び財務顧問の命を受け地方徵稅の事務をも兼掌せしむる事と爲すなりと

●仁川在留の本邦人　目下當地の戶數千八百七十九戶人口壹萬六百十九人內男六千參百貳十四人女四千二百九拾五人にして之れを各居留地別にすれば日本居留地參百五十壹戶千九百貳十壹人各國居留地六百貳十參戶參千九百參十六人清國居留地六十八戶參百十八人朝鮮町八百參十七戶四千四百四拾四人なり尙ほ日に激增の方なり但し右は其筋に屆出でたるものゝ數にして實際無屆又は滯在者等を合するときは優に壹萬七千以上に達すべしと

●新來渡元者の困難　汽船より渡元するもの外京城より陸行來元するものとを合せ元山町は今や我日本人を以て埋むるに至れり而して之等は何の目的もなく又資本金を携帶せず只近來元山港の繁盛なるを傳へ聞き移住を企てたるものにて或る部分に至りては糊口も凌ぎ兼ぬるの有樣なり何んとか此際注意を加へざれば或は道途に迷ふものを生ずるに至れりと云ふ

●營口行船舶の注意　清國營口は既報でも報せし如く夫の遼河流域全く解氷し船舶の出入差支なきに至りたるを以て其筋にては入港船舶に對し萬國信號旗により信號通信を爲し其便宜を與へつゝあるなるが今後報によれば信號通信所は普通船舶に對しては其碇地を指定せず又危險警報若くは特に緊要なる事項の外は信號通信を受付けざる趣にて頃日其筋より各船舶に對し右の注意を與へたりとなり

●韓國に於ける紙漉業　韓國中或る方面に於て紙漉事業を起さんとするの計畫あり前來韓國に來住する日本人は日に月に增加の趨勢なるにも拘はらず未だ斯る屑紙屑屋の營業を開始するものなき故當港の如き仁川の如きすら殆んど屑紙の所置に苦みつゝあるの狀態なり若し紙漉事業を起すものあり屑紙を集めて所謂漉返しなるものを製すれば韓國來住日本人の需要に供給するのみにても決して些少のとにはあらざるべし殊に韓國産出の紙類は楮皮製のものなれば漉返しの原料として最適のものたるべし此事業を開始するものあらんには之れと伴ひ紙屑營業をなすものも續出し屑紙の需分上にも頗る便宜を得るに至らん是れ當業者の一考を要すべき所なるべし

征行日記

誠齋

參月二十二日　晴曖

午前六時起床仝七時三十分高柳伍長と共に設營の爲め先發舊祥原にむかふ縱列の前方に宿營せし第一梯團も本日縱列と目的地を同ふして進む午前十二時著第十二旅團（即ち第一梯團）副官と協議の上舊祥原の前方（東北方）約二千米突の花洞に舍營の計畫をなせり

此地たるや人家稀少にして点々遠近に散在し設營甚だ困難なり

午後一時第一梯團の若干部隊軍旗を擁し諸々宿營地を過ぎ

縱列二時着四時入營せり

第十二第二、近衛の三師團を以て第一軍編制成る旨公表せらる

行程自平壤至花洞五里

三月二十三日　雨曖

午前六時起床仝七時公用により舊祥原の主計は金櫃の補充をなすべく平壤に二名出發す余は十時縱列に後るゝ約三十分にして花洞を發し燕山に向ふ行を急ぎ縱列を拔ひ先行し設營に向ふ午後二時着兵站司令部の命により双泉（燕山の西北方約四千米）に設營をなす

十一時頃より空曇り風徵温細雨蕭々漸く強く道路滑り又滯る縱列長は燕山の南方にて余等に追付けり

兵站司令部の遠ければ秣並薪の購買をなす

行程自花洞至双泉五里

日本文壇に與ふるの書（壹）

古山劍風

日本の文士諸兄足下、余は今一書を足下に致すを榮とす、余が郷里五城樓下を出で、所謂日本文壇に馳驅してより常に往々蹉跌に接し、常に往々失意の軀に繫ちし而かも事の成らざるを以て今や遙かに海を渉りて亡國の野に彷徨するに至る、南鳳北雲首を回らして遙かに故國日本の空を望めば想非々遙に流滯す、而かも異國の山中時に一輪の白梅を見る、想ふに躑躅か岡の櫻花は今や脩都の士女が其のあらゆる贊美を呈せんとするに對する盛裝に忙はしきことを信ず遷戻、春風千里白雲海を閉ぢて唯胸肚鬱きざるの恨あり若し夫れ廣瀨河畔の春色に至りては豈彼が所謂「春風吹花滿澆水」の一句を以て足れりとせんか、否われはオルヅオルスが其の著「故郷の人」の一節に於てアゝ故郷は其榮の花の無きが如く人も又盡きたり、吾等は彼の可憐なる蝶となりて故郷を訪はんか故郷はちら〳〵として流るゝ森の水に滿てり吾等は樹の葉となりて彼の故郷を訪づれんか」の如く故國の花と山と水と空とが渾然として眼前に勢躍するの瞬時に於て吾等は無限の追懷と無限の慕情とを禁ずる能はず、寔に故郷の粗食は他郷の美味に勝るの古人の言に多大の同情を拂はんとするもの也、吁足下よ韓の天[illegible]に蓬茫として奔る衆雲に吾理想の火は燃ゆれども、彼の茫々たる大陸的の韓山に吾高大なる詩想は燒かるゝも、吾れは彼の春色悠々時に一輪の野火北南の畦畔を埋め、一朶の白雲天峰の一角に懸れる故郷の春色を忘れんとして忘るゝ、に忍びざる所也、

●東京穗堤會詠草　小野田露翠

忍び音の小車ひくき綱還や、衣手かろきうすきぬの人。

戀にやせておゝに十とせの夢やしづか、少女、さびしき梅月夜かな。

京の春祇園は花にたそがれて、緋袖にうつる夕月の影。

笑みつらき小袖にしのぶおぼろ夜や、梅か香若き昔なつかしき、

歴梅の香り冷たきうたゝ寢や、思ひみだるゝ春雨の宵。

峯ひくう雲たゞならず風すみ、阿闍梨が袖に夕日つめたき。

其の昔の夢占ひは幸かりき、今朝うすらひにわがやせ姿。

幾を闇に彫刻みてぬかれぬみ摩のしばし世の榮えと見る、

胸の血を火蕊に燃きてかきし歟、香爐の春踊しませな君（古山劍風の君よ）

讐討 武勇の譽（廿一回）

本社　井竹林講演
　　　本社員速記

重「荷物を殘すナ　太「かしこまりましたと起上り支度もソコ〳〵に荷物をと見ると楷子が引てあるコハ怪しからんと雨戸ひらいて向ふを見ると坊主あたまに鉢巻なし六尺棒を取て策念他に侍ひ兩人は此方へ小手を翳して見て居る　重「偖は又仙石長左衞門の計略に陷いつたか何條何程のことやあらん太平しつかりしろ　太「何をなさいます　重「何でもいゝと突然小脇に挽込んで二階のはきだしの手摺へ足をかけると七尺にならんといふ大兵肥滿の人が我の身のかるきことさながら飛鳥のごとくヒラリと飛下りました　太「アー驚ろいた先先飛びましたナ　重「夫れ奴等を逃さぬやうにしろと太平よ重太郎が疾風の如く飛んでくる　策「夫れ二階より逃げ出たり何程のことかあらう討どれど策念と彼の二人が討てかゝるを心得たりと太平は侍ひ一人を何の苦もなく取て押へました重太郎は策念を捻ぢふせて今一人の侍ひを當身をくわして　重「太平でかしたナ　太「ヘエー一人ふんづかまへました　策「此奴は矢張り仙石長左衞門の家來でおるか何だ貴樣は……といふ内に百姓どもが大勢集まり來ましたのを見るや策念が　策「イヤー村内のもの二人か寺へ火をつけたので何うか早くしばつて下さいと一聲かけると重太郎は　重「アイヤ百姓ども必らず狼狽てはならぬ拙者は岩見重太郎と申すもの今一人は朋友若松屋太平今ばん當寺へ[illegible]つて一泊いたした處が我々兩人を燒殺さんといふ策念のたくみ彼は捕置べきものに非ざれば火事を脫て取押へたる次第決して我々が放火をいたした次第でない　○「旦那樣岩見樣でございますか皆な騷ひではなんねへア、方は岩見樣だ　○「夫ではなんだつべいア、兄きの敵をやつべいといふので策念坊主が大方火をつけたんべいイヤよろしゆうございます其坊主はわるい坊主でございます其位ゐのことは仕兼ねエ坊主で私しども、ハア此の奴郎が惡ひヤウあとは知つて居りやすお前樣のハア噂さは私しども此の間だからきいて居てモー何うも大層な御侍ひ樣もあるものだと感心してゐるのでございます旦那御心配なく其奴等を渡しておしまいなさいまし俺どもが證人だから　重「イヤ早速きゝ分けてくれて忝じけない此の策念と申すものは上野之介政景の弟御とは偽はりであらう　○「アレヤア大變なあとをいやアがつて此の坊主は仙石長左衞門の弟でございます上野之介樣の弟に此樣ハア惡黨坊主が出來るものじやアございません旦那乃公どもは此坊主に重根があるのでございます樣はねエからおつ殺して下さい　重「左樣か然らば此の三人を助け遣はす　○「イヤ助けねへで殺していかつせ　重「イヤ〳〵殺生は好まんれ前達に引渡すからよいやうにいたすがよい必らず命を斷つナ我は先を急ぐもの是から出立いたす　○おめへ樣を燒殺さふとしたのだからくやしかんべエ夜が明けたら上野樣の邸へ引張つて往つて　重「イヤ〳〵左樣なあとは好まぬお前さん方でよろしきやうにしろ　○「左樣でございますか夫ではマア勝手になさいまし乃公どもがうのちやつておかないで取つかまへて翌は此の政景樣の邸へ訴たへます　策「左樣がと聽く重太郎が懷中より紙を取出して矢立の筆に染め何かしたゝめまして重之はお前方に渡しておくから之を訴たへたならば此の書だものを役人に渡してくれ　○「之はハア何でございます　重「之は拙者から上野之介並びに他役人へ訴たへ書だ

朝鮮日報

雑報

●平和條件の風說

英國佛の外なる某大國が日本政府に媾和の意向を問ひし趣は東京社友より參考の說として報じ越せるが二月中旬以來外交上の形勢は不和克復の速成を促すに傾ける事は頗る猜するに足るも左右の說も或は當れるやも測り難き所昨當長崎港にては居留地間に平和條件略々知られたりと噂し之が條件として左の數箇條（此外にも云々すれど關渉したり）を擧げ關分信に居りし向きありたり併し日本政府の意向を指すにや某國の瀨踏條件にや其邊さへ漠然たる種の流說なるから當地外の問題と爲り居れるは事實なり

一、東三省は淸國に還附し其地上權を日本に讓與す
一、朝鮮は日本の自由經營に任かす
一、サガレン島を日本に割讓す
一、浦鹽斯德を貿易港とす
一、償金十億圓を支拂ふ

說の眞僞は固より保し難しと雖ども時節柄參考として之を揭載す

●通信機關委任決定

韓國の通信機關は愈々我が政府に委任することに一昨日の議政府會議に於て確定したり今回會議の模樣を聞くに前號の紙上にも記載したる如く韓皇陛下は豫て各大臣に勅命を下し斷じて缺席することなく閣議に審議を行ふ可きことを命せられたるにも拘はらず參政閔泳煥氏及び議政署理朴齊純氏出席せざりしが爲め會議を開く能はざる模樣なりければ陛下は直ちに勅命を以て出席大臣中の年長者を以て臨時議政大臣署理と爲し議事を開くべしとの勅命を下されたるを以て軍部大臣權重顯氏直ちに議政大臣の席に着き議政府會議を開きたり此の會議に附せられたる議案は尙ほ他に數件あるべきも豫ねて問題と爲り居たる韓國の通信機關を擧げて我政府に委任するの件は最も重もなるものにして幾多の議論の紛出したる結果日本に委任する事は略ぼ一致したるも期限を如何にすべきかに至つて頗ぶる異論百出し十年を期限とし其後は之れを韓國に還附すべきの條件を附することに勢力ある主張なりしも結局韓國人文の程度發達して韓國自から整理するに足るの時機に達したれば雙方妥協の上契約を解除することゝなし漸く之れを可決確定するに至りたり右の會議に於て通信機關委任の契約は今明日中に調印を終はるならんと云ふ尙ほ同日の會議には我が林公使萩原書記官の兩氏も出席したり

●京釜鐵道の好績

京釜鐵道は去一月開業の當日は一日平均一哩六七圓の收入にて二月には一日平均一哩約九圓の收入あり次いで去三月に入りては益々好景氣にて一日平均一哩十圓以上の收入となり收支全く相償ふに至りたるのみならず三月に於ては五百圓の利益を見るに至りたる由好成績といふべし

●京釜鐵道の缺點　同鐵道が目下使用しつゝある車輛數は機關車十九輛にて此の上に新着のもの九輛貨車は二百三十輛あり唯客車に至りては二、三等を合し僅に十三輛にして夫の車軸より發火するの原因も此車輛不足して休止冷却の暇なきに由るならん增芳の隧道竣工せば急行列車の運轉を開始する筈にて京釜間を八時間又山陽の接續船によりて馬關釜山間を八時間にて着するを得る事となるべきも唯恐る京釜鐵道會社の過度なる消極主義にして改むるあとなくは果して豫定の如く其設備の完きを得べきや否や人員は過度に不足なり、不平不滿の聲は會社內に讙々たり、實際に此線路を一過したる者の目には其節儉主義の過度より起れる弊害歷々として見るべし、京釜たるもの須らく反省すべきなり

●京釜間直通列車開始と本邦連絡　京釜鐵道にては增若外數箇處の大隧道工事竣成の結果として來月中旬より釜山、京城間に上下各壹回の直通列車を運轉する由にて同列車には食堂列車も連結する筈なりと云へば同鐵道も一進歩と見るを得べく而して之と同時に從來の區間列車も京城、成歡間上下各三回釜山、成歡間貳回を運轉すべしと云ふ直通列車の發着時間左の如し

下り　釜山發午前八時、大邱發十壹時三拾分、京城着九時四拾五分
上り　京城發午前六時五分、大邱發午後四時參拾五分、釜山着八時拾分

尤も右は隧道竣成の經果には相違なきも山陽鐵道との連絡は即ち同直通列車の發着を基礎として測定せらるべく尙東海道線との直通連絡も亦之に依りて測定せらるゝ筈なれは何れ早晩東海、山陽の直通時間及び下關、釜山間の發着時間も決定せらるゝに至るべきが假に東海道と山陽鐵道の直通を藉り現今の列車に依りて爲すとするも東京、下關間約參拾五時間、下關、釜山間滊船連絡時間拾時間、釜山、京城間約拾四時間を費せば東京、京城間六拾時間即ち貳晝夜半にて達する事を得べく長崎、釜山間六時間とすれば京城、長崎間貳拾時間即ち壹晝夜不足なり

●大邱たより

▲本願寺の布教　當地に於ける東本願寺分院は府川宏哲氏專ら布教の任に當り每月五の日午後六時より說教をなし他に每週某曜布教をもなしつゝあるが遠からず韓人布教にも着手すべしと云へり

▲郊外の春色　桃李未だ笑はざるも昨今日に增して陽氣を覺ゆ試みに杖を郊外に曳けば菜黄ならざるも麥一面に靑く蝶舞はざるも鳥啼きて春風軟た靡蕩野は一非の春景色となり外套の重さを感ずるに至れりしに昨今春雨の斷續々として左までも惡しき道路に泥濘を絕たざるには閉口也

▲馬山公賣期日決定　馬山浦各國居留地內新測量地は一本區廿五日の由にて殘地九區の競賣は五月二日同地稅關に於て執行する由なり

●岡部子爵渡韓の愛報　岸和田舊藩主岡部長職子は近日渡韓農業經營のため歸岸族裝準備するあとゝなり滯岸中子爵別邸又は川合別莊のうちに宿泊すべしと▲現今泉南郡區だの內南郡發郡と日根郡の一部は舊領內なるが其郡內中流以上農民等と昔時より舊領主と淺からざる關係あるを以て此機に乘じ子爵に隨伴其指導により一耕耘を努充んとの希望者頗る多く目下各村に於て寄々相談中なりと▲北郡守村の豪農にして郡會議員たる秋野源之助北信達村尾崎銀行支店長岸本政次郎並▲松井前尾崎村長の三氏は此際韓國隨伴農業上の現況を視察すべしとのあとなるが將來にカンツトリー設立の準備ならんとの噂高し▲隨伴希望者の純粹の農民に多くして却て同地在住の舊士族連は廢藩の際刀を捨て直に商工業に從事し現に相應の身代を作りたるもの少からされば同地在住舊士族の內より隨伴すべきものは甚當り少數なるべしと▲舊領民は由來遠征的志想に富むことは當府下の特徵とする所にて壹二の例を擧ぐれば泉南沿岸たる岸和田貝塚佐野嘉祥寺等の漁民は夙に打瀨網を以て名あり例年拾壹月より遠く朝鮮海に航し漁獲に從事し翌春四月に至り少からさる收得金を携へ歸國し居れるが此程先歸をしたる漁民數名の語る所によれば殊に昨年より今春にかけては朝鮮海には特殊の事情ありて其收得金の如きは平生に比し數倍に達せる好況なりしかば斯業者に對し一層の奮勵を起さしめたりと又農民に至りては從來米國に至り農業上の收益を得るもの少からさるが多數の貧困者の如きは心は矢竹に逸れども容易に渡米し能はさるを遺憾とせしが韓國の如きは下關と釜山間との交通は僅々九時間を以て容易に連絡せらるべき狀況となりたる際空しく本國に在りて粒々辛苦の結果日常僅に四拾錢位を得るよりは奮つて渡韓移住し將來相應の身代を造らんとの意氣込なるが國家の爲大に賀すべきとなり▲舊岸和田城下たる四ケ町村の有志者等は岡部子爵の渡韓を美擧と爲し農工銀行頭取川合爲己南海鐵道重役佐納木政丈（以上二氏舊藩士）岸和田紡績會社長寺田甚與茂、泉南郡織物組合理事長野補太郎の四氏を擧げて發企人となし舊領內等の岸和田城天守臺に參集せしめ岡部子を招き盛なる送別式を擧げんと又舊領內にける教育者等は岡部子に乞ひ岸和田港頭より出發を求め各學校生徒をして之を送らしめ遠征事業の盛なるを看せ將來立志談の材料となさんとの事なるが教育者が斯の如きを起せしは實に感ずべきものなり▲泉南郡各町村にては昨今三八以上の集會には必ず同子渡韓事業話頭に上り頗る盛況を呈せり

●休刊　本日神武天皇祭に就き明日は本紙發行せず

●黒鳩公の年少時

日露戰爭は世界の種々さまざまの事や物に影響した、殊に米國では日本に同情を寄するものが多く新聞に雜誌にそれに關した記事や繪畫が續々載せられるやうである、されば少年雜誌などの事業懸賞文までもロシヤの小歷史とかロシヤ人物の逸話とか云ふ題目が澤山見えて居る、これもその當作文で、今は日本軍に惱まされ滿洲の雪や氷に泣面をさゝげてゐる、敵將クロパトキンの年少時を描いてゐる、素より稚い文章だがクロパトキンと云へは日露戰爭以大關係の人物ゆゑ譯して出す、少年達讀みたまへ、そうして君等もそんな題で作文して見たまへ

クロパトキンが十七歲位の時或る陸軍學校へ入學させられました、あの學校では生徒等を課程勉强せねばなりません、けれども每週壹日に拾貳時間だけは紳士としての體面を保つべき事と云ふ條件で彼等は思ふ存分遊べるやうになつて居ります。

或る時あの休日よクロパトキンは同校の生徒二人か、小さな氷砂糖商の店の物を引ッ摑んで逃げてゆくのを認めました。

さて學校生徒等が學課を修ひてゐる最中へ水砂糖商がやつて來て右の次第を訴へましたそこで校頭は水砂糖商にその二人の少年を調べあらはせと云ひました、ところが悲しいかな商人は水砂糖を盜まれた時餘り驚いたので橫着物の顏を覺えていないのです、たゞあの學校の校服を着けた二人の者が盜んだので、それを他の壹人の生徒が見て居つたといふ事が譯つているはかり、校頭もあれにはいさゝか失望し仕方なしに水砂糖商を還らせました、そしてその跡で生徒等に向ひ

「諸君よ、諸君は只今の話を聞いたでせう、私は今諸君に參箇問ひたい事がある、それに對して壹々眞實に答へていたゞきたい」と、から云つて次のやうな問を發しました。

汝は水砂糖を盜んだか

汝は水砂糖を盜むのを手傳ふたか

汝は他のものが水砂糖を盜んだのを見たか

彼等は皆否と答へました、そしてとうとうクロパトキンの順番になつて來ました。

彼は第壹第貳の問を否んだが第參の問に對しては然りと強く答へて起ち上りました

「先生、僕は橫着をした者を知つて居ります、僕はそれを見ました、併し誰れと云ふあとは云ひません、あの事に就ては皆は知らないと云ひました、ですから今あるで……」

と彼の聲は明かに響き渡りました

「皆に起立させて懺悔させて下さい、ロシヤ人らしく男子らしく」と云ひ放つて自分の席に引き退りました、低い贊讃の聲がボシャボシャと教壇に傳はりまして同時に二人の犯罪者が立ち上つて自分等の罪を打消けました。みの事があつてからクロパトキンは總ての友達仲間で勇者として待遇はれました。

●確實商店案內（三）

●上西酒店　は西町三丁目にある酒店にして灘銘酒櫻正宗及櫻魂の特約賣入販賣を爲し傍ら洋酒類も商ひけり

●藤井文平商府　は本町二丁目にあつて石鹼、洋紙、鏡、硝子器、洋蠟、毛布、寶達、素麵類、金物類主に韓人向諸雜貨を販賣する商店なり

●西川商店　南濱町にあつて屋號を井筒屋と云ふ諸服裝用品販賣店にして洋服靴を始めとし各種附屬品其他諸雜貨を販賣せり

●岡野商店　本町北濱通にあり清酒醬油味附漬等物を主とし其他諸種の八百屋物等も販賣しつゝあり

●正誤　去る一日の本紙第二面に於て大邱だよりの一節に旅館やまと屋よ關する魔羅云々の件は事實相異により右訂誤す

韓錢相場

朝鮮日報

小說

袈下の曲

天奴

月は臥龍山に落ちて、星は曉虎山の嶺より次第に減り行くのである。

雲なき空、東白の色は鮮やかなれ。なれど若葉青葉、夏の森蔭思の外に闇し、途の小草、露闇々、露衣には裏書かる様に覺へられる。枝、枝、葉と葉、其間より洩るゝ曉の光の、物々覆ふ絹の綿一重宛剝くかの様に。近くより遠く、秒、刻、唯もの明るくなり勝りて、

闇に響けりし足音、木魂運へしの人の氣配も。今は皆に其影もみへ其姿も朧ながらに知り得られる様となつた。

來るは二人。男は二十五六服裝の紺下に來しいのに反して見上ぐるばかりの骨格。女は十八九か、髓とは解かられぬぞくつきりと白い色は七難匿すてふ女の一得、着て居る衣もさのみは麁末ならぬ様で、物腰は優にしとやか。いゝはたと。森中、われ〳〵、右に往けば鮎川村、左に往けば鮮[illegible]、評判の一本松が其目標になつて居る。男は空を仰いで[illegible]女の手を、其儘引き寄せ

『君ちやん……。』

『は………』。

『露か、熱い。手は、冷たからず。』

『僕はね、二度と歸れまいとは思ふのだが、けど若し……歸れたら……』。

ど、はらはらと、涙は涙である。女は、いと賞めて嘆くけしきも皆には分かねど心の哀れさ。身を[illegible]る、とは今の思ひ、肉を殺ぎ胸を屠らるとは慥にあれ。

『は、あい』。

『虎は死して皮を留め、人は死して名を留むる、と云ふ話は知つてるね。僕は水呑百姓、親も兄弟、親身となる縁類もない。云はゞ枯木の一本立。野倒死ぬべき十三の春、[illegible]すも口に憚かるが、有り様は君ちやんの家に拾ひ上げられて、[illegible]にも一人前、二十一の年から去年の暮れまでは兵營の勤め、幸に伍長とまでなつて解隊された處は……君ちやん口にこそ言はれぬが、僕は決して忘れて居ないよ。所が今度の召集、露國との戰爭は……ね、出れば緣か切れるかの戰場』とばかり男は極まつて言葉が絶へる。女も今は唯、涙のみで答ふの外には術がないので。曙の色、梢より葉裏まで、袖に置く露は白い。

『十三以來の御恩を、解隊の後に[illegible]と思ふたのは空眼めで、既に斯ふ召集せられた以上は、生きて再び龍野村へ歸れ様か……。いや、無論歸れはせぬ、全くかへらうなぞと思ふのが間違いで、君ちやん……、此れがね、今日がね……一生の別れ』。

不意に右手の繁みから鳥が飛つ。

『馬鹿なッ、未練だッた』 男はずいと身を離いて、引いて居た女の手を離ろふとする。女は懸命で。

『あれ兄さん、ま……ま……』。いゝいつすがり附く様に、ひたと身を寄せた、胸の動悸か、男は女の身の震へるのが知れるのである。

『兄さん、それは……あ、あんまりですよ、それは軍人の覺悟、ではありましようが跡に殘る妻の……』。

『シッ、君ちやん……』。

『あい』。

『妻、妻とは……誰が許した』。

『はい。妻が、妻の心が……。兄さん、妾は違ふから……』。

『む……では君ちやんも……』。

『あい……』。

二個の影は一ツになり、一個の影は聲もなく動きも仕ないので。

遠く近く、人の足音、追ふが如く慕ふが如く。少なく多く、人の聲、怒るが如く罵るが如く。

手飼の犬に噛まれたも同然だ。と云ふはお君の父の聲らしく、小作小者聲々では。

野郎不孫だ。

兵隊から戻つて以來、變だと思はねェでもなかつたが、案の如く……

お嬢さまやアい。

お君よゥい。

仁川沖合の遭遇戰にかち、日本海方面の大海戰に克ちたる我大艦隊は、遂に旅順の敵艦を湾港に封鎖して制海の權は全く我掌理に任る。

第一第二第三次までの陸兵の輸送を終り、今や盛京省の一部に入り、第一軍團の首力は既に吉林の[illegible]、[illegible]を跡に、[illegible]を抱いて黒龍省をも略せんとす。

龍卒の骨枯るゝも一將の功を收むれば足なり。千將の肉を碎き[illegible]、突き、碎き、進みて撃る我軍團は、葉月葉日全く露兵の斐影をも北清の野にはじる能はざらしめたり。

[illegible]に斯く報せられたり。

戰死者 八百六十一名
負傷者 二千四百五十余名
敵の死屍 壹千九百余
今負傷 無慮六千余

臥龍山の隈、曉虎山を近く軒にせる庵あり日夕鐘磬の音斷に、松風に連れて讀經の聲艶にして哀なり。

有髮の尼、誰君きが捧ぐる花、そを受くき人は誰れ。

故陸軍步兵軍曹功七級 大和勳夫の靈

無情河邊の骨、紅閨夢裡人。功に死せ人、眞に生ける人、臥龍山頭の月長に幾夜か塞外の砂塲を照るならん。(完)

社告

本社電話架設中に有之候處昨日より開通致(四百參拾番)し候間此段廣告仕り候也

四月二日

朝鮮日報社

▲下女の戀

鬼門大臣

黒田君の墓十旬や鬼十旬を異戲て下の戀をやつて見ね、なるならね、出た出來ぬは下女君に聞いて見玉へ。

紅梅に我顔[illegible]下女の戀
猫の戀下女のあふ[illegible]
世の進化下女ッ、ホッつけ望つひ
樂隱居下女の手をひく花見寺
婢の待する離れ座敷や灯の淡き
木爪咲くや下女の年さへ古稀の翁
馬鹿殿の下女數多つれ草を摘む
れほろ夜や厚化粧して下女の戀
悟ましや海棠ちぎる下女の戀
井の端や花にいさてふ下女の戀
すれ違ふ鬼や美人か下女の戀
頬撫してあざみを笑ふ下女の戀

釜山商況

米穀 依然出廻り稀薄にて随て積出しもあらざれど當用品には差支へなく先以て地相場に變狀なし今並昨今の相場は廟棟上等品十三圓二十錢並米十三圓改良玄米十圓五十錢六十錢より十圓下等等九圓八十錢位に居れり

大豆 氣配は相變らず強きを出廻り稀少なる爲め[illegible]得者きき爲め取引も多からぬつ賣渡り[illegible]自然高唱となり釜山上等品八圓三五錢より川口物二十五錢位を唱へ居れり

食鹽 本日より實施せらるゝ次第を以て價格に多少の變動を生ずならん一体に強氣にて[illegible]鹽は近來大に輸入の需用を增し輸入增加の傾向あり相場は[illegible]圓(一萬斤)内外なり

燃料 薪炭共別に變狀なし石炭は大体に於て相場昂騰せしも地相場は別に變りなし

石油 [illegible]氣配惡しく[illegible]多少の下落は免れざるべき商情なり

綿絲布 紡績絲は相變らず好況なるも紡績織物は移り變りの時季に迫りたる爲め凡て不況なり

綿錢 在落落にて供給不充分なる爲め必要上自然買ひ進まざるを得ざる場合なるを以て近來になき強氣配にて騰昂進の氣配なり

朝鮮日報月曜廣告